

# 窪尼御前御返事

弘安四年一二月二七日 六〇歳

品<sup>品</sup>なものをくり給<sup>た</sup>びて候。

善根と申すは大なるによらず、又ちいさきにもよらず、国により、人により、時により、やうやうにかわりて候。譬へばくそ糞をほしてつきくだき、ふるいて、せんだん梅 檀の木につくり、又、女人・天女・仏につくりまいらせて候へども、火をつけてやき候へば別ちの香なし。くそくさし。そのやうに、ものをころし、ぬすみをして、そのはつ初 穂ををとりて、功德善根をして候へども、かへりて悪となる。須達す だつ ちょう じゃ長者と申せし人は月氏が っ し第一の長者、ぎをん維 園精舎をつくりて、仏を入れまいらせたりしかども、彼の寺焼けてあとなし。この長者もとい魚ををころしてあき商なへて長者となりしゆへに、この寺つ失みにうせにき。今の人々の善根も又かくのごとし。大なるやうなれども、あるいはいくさをして所領を給び、或は故ゆへなく民をわづらはして、たから財をまうけて善根をなす。此等は大なる仏事とみゆれども、仏にもならざる上、其の人々跡あともなくなる事なり。又、人をもわづらはさず、我が心もなをしく、我とはげみて善根をして候も、仏にならぬ事もあり。いはく、よきたねを悪あしき田にうえぬれば、たねだにもなき上、かへりて損となる。まことの心なれども、供養せらるゝ人だにもあしければ功德とならず、かへりて悪道におつる事候。此は日蓮を御くやうは候はず、法華經の御くやうなれば、釈迦仏・多宝仏・十方の諸仏に此の功德はまかせ任まいらせ候。

抑今年の事は申し古ふりて候上、当時はと歳しのさむき事、生まれてこのかた已来いまだおぼへ候はず。ゆきなんどのふりつもりて候事おびたゝし。心ざしある人もとぶらひがたし。御をとづれをぼろげの御心ざしにあらざるか。恐々謹言。

十二月二十七日

日 蓮 花 押

くぼの尼御前御返事